

平成27年度行政事業レビューシート（金融庁）

平成27年度行政事業レビューシート（金融庁）									
事業名	金融モニタリング等実施経費				担当部局庁	検査局		作成責任者	
事業開始年度	平成12年度	事業終了 (予定) 年度	終了予定なし		担当課室	総務課		中村 修	
会計区分	一般会計				政策・施策名	政策Ⅰ… 経済成長の礎となる金融システムの安定 施策Ⅰ… 金融機関の健全性を確保するための制度・環境整備			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	銀行法第25条、保険業法第129条等				関係する計画、通知等	平成26事務年度 金融モニタリング基本方針 「日本再興戦略」(平成25年6月14日閣議決定) 「日本再興戦略」改訂2014(平成26年6月24日閣議決定)			
主要政策・施策					主要経費				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	金融仲介機能発揮の前提としての金融システム・金融機関の健全性の維持								
事業概要 (5行程度以内。別添可)	金融機関を取り巻く内外の経済・金融環境の変化に留意しつつ、金融機関による適切なリスク管理態勢の整備、円滑な金融仲介機能の発揮に資するよう、以下の経費を活用し、実態に応じた的確な金融検査等を実施する。 ○「リスク計測参照モデル関係経費」⇒被検査金融機関のリスク計測モデルの特性(限界、弱点等)を明確にすることにより、深度ある検査を実施するために必要な経費。具体的には、被検査金融機関の信用リスク及び市場リスクに関するデータをもとに、当局でもリスク量を計算、比較するためのシステムの運用・保守である。 ○「モニタリング支援情報整備・活用経費」⇒27年度新規執行案件。個別金融機関の健全性の確保(マイクロ・ブルーデンス)だけでなく、金融システム全体の健全性の確保(マクロ・ブルーデンス)に資するため、海外当局の施策等を調査し、モニタリング強化のためのシステム開発や金融機関からの徴求データの見直しを行うために必要な経費。 ○「自己資本比率規制の国内実施に係る必要な経費」⇒自己資本比率規制に係る高度なリスク計測手法の採用を希望する金融機関に対する、承認審査及び既承認金融機関からの報告内容の分析・検証を実施するためのシステムの運用・保守に必要な経費。 ○「デジタルフォレンジック関連システム経費」⇒金融検査の過程において、検査先の電子機器(PC)に保存されている電子データの復元(原本性を確保した証拠保全、専門的解析、検索・証拠化等)を行うためのシステムのライセンス料及び運用・保守に必要な経費。 ○「金融検査手法向上等経費」⇒金融検査マニュアル別冊[中小企業融資編]等の定着のため、適切かつ効果的な周知を図るための広報ツール(広報用パンフレット)を製作するために必要な経費。								
実施方法	直接実施、委託・請負								
予算額・ 執行額 (単位:百万円)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度要求		
	予算 の 状 況	当初予算	38	42	43	46	114		
		補正予算	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-			
	計		38	42	43	46	114		
	執行額		39	40	34				
執行率(%)		103%	95%	79%					
成果目標及び 成果実績 (アウトカム)	定量的な成果目標		成果指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 27年度
	「金融仲介機能発揮の前提としての金融システム・金融機関の健全性の維持」に有効な金融検査の実施がなされているか。		被検査金融機関から検査の実施状況などについて意見を受け付ける「オフサイト検査モニター」のアンケート結果(4段階評価)のうち、「1(妥当)」または「2(概ね妥当)」と回答された割合	成果実績	%	98.6	98.5	98.7	
			(アンケート項目例) ・重要なリスクに焦点をあてた検証が行われましたか。 ・双方向の議論等が行われましたか。 ・問題の本質的な改善につながる深度ある原因分析・説明が行われましたか。 ・より高い水準の内部管理態勢の構築に向け、改善を検討すべき点が明確に示されましたか。 ・金融機関の主体的・能動的な経営改善に向けた取組みに資するものでしたか。 ・検証結果に関する真の理解(「納得感」)が得られましたか。等	目標値	%	100	100	100	100
				達成度	%	98.6%	98.5%	98.7%	

活動指標及び活動実績 (アウトプット)		活動指標		単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込	
		主な金融機関の検査実績 (主要行等、地域銀行、信用金庫、信用組合、 生保・損保、貸金業者、前払式支払手段発行者) ※当該実績は事務年度(7月から6月)の集計である。	活動実績	件	477	462	353		
			当初見込み		-	-	-	-	
単位当たり コスト		算出根拠			単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込
		年間執行額／金融機関の検査実績件数		単位当たり コスト	千円	82	85	96	-
		※検査実績件数は事務年度(7月から6月)の集計		計算式	千円／件	39314／477	39643／462	33998/353	-
平成27年度(単位:百万円)	費目		27年度当初予算	28年度要求	主な増減理由				
	情報処理業務庁費		33	33	○モニタリング支援情報整備・活用経費の要求増。 (諸謝金: +68百万円)				
	諸謝金		13	81					
計		46	114						
事業所管部局による点検・改善									
	項 目				評 価	評価に関する説明			
国費投入の 必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。				○	○本事業の目的は、金融仲介機能発揮の前提としての金融システム・金融機関の健全性の維持であり、国民や社会のニーズを的確に反映している。			
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。				○	○金融システム全体の健全性を維持するためのものであり、国が実施すべきものである。			
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。				○	○本事業を構成している経費は、政策目的達成のためには必要かつ優先度が高いものである。			
事業の 効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。				○	○各経費の執行に際しては、入札又は公募を実施することにより、競争性を確保している。			
	受益者との負担関係は妥当であるか。				○	○国民全体の利益に資するため、国費負担としている。			
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。				-				
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。				-				
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。				○	○必要性を勘案の上、経費を使用する事案を絞り込むことにより、経費の節減を図っている。			
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)				-				
事業の 有効性	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか				○	○「自己資本比率規制の国内実施に係る必要な経費」において、従来サーバでの運用を行っていたが、PCでの運用に切り替え経費の節減を図っている。			
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか				-				
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。				-				
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。				-				
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。				-				
関連 事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)								
	所管府省・部局名		事業番号	事業名					
			-	-					
点検・ 改善 結果	点検結果	○リスク計測参照モデル関係経費については、被検査金融機関の信用リスク及び市場リスクに関するデータをもとに、当局でもシステムを活用してリスク量を計算・比較し、被検査金融機関のリスク計測モデルの特性(限界、弱点等)を明確にしている。 具体的には、26年度において4金融機関を対象に住宅ローン・モデル等でリスクを試算し検査に活用すると共に、財務局等職員を対象としたモニタリング技術向上のための研修や、ベトナム中央銀行の要望を受けて開催した当該銀行職員を対象とした検査手法に関する研修に使用したところ。 28年度もこのように深度ある検査等を実施していくため、同程度の予算を確保する必要がある。							
		○モニタリング支援情報整備・活用経費については、27年度新規執行案件であり、現時点では点検を行えないが、個別金融機関の健全性の確保(ミクロ・ブルーデンス)だけでなく、金融システム全体の健全性の確保(マクロ・ブルーデンス)のため、海外当局の施策等を調査していく。 当該調査結果を踏まえ、中長期的にはモニタリング強化のためのシステム開発や金融機関からの徴求データの見直しを実施する予定である。28年度においては、最適な徴求データの設計及びシステム導入に係るフィージビリティ調査、ロードマップ作成等に係るコンサルティングを計画しており、このための予算を確保する必要がある。							
		○自己資本比率規制の国内実施に係る必要な経費については、システムを活用して、自己資本比率規制に係る高度なリスク計測手法の採用を希望する金融機関に対する承認審査業務(承認実績:24年度5件、25年度6件、26年度2件)及び既承認金融機関のリスク管理のモニタリングを行っている。 28年度も本システムを活用して金融機関のリスク計測手法を検証していくこととしており、同程度の予算を確保する必要がある。							
		○デジタルフォレンジック関連システム経費については、金融検査の過程において、被検査金融機関のPC等に格納されたデータ等が何かしらの事情により削除されてしまっている場合、本システムを活用して削除されたデータ等の復元・解析等を行っているところ。(利用実績:24年度13件、25年度9件、26年度10件)。 28年度も本システムを活用して検査を実施していくこととしており、同程度の予算を確保する必要がある。							
	改善の 方向性	○金融検査手法向上等経費については、金融検査マニュアル別冊[中小企業融資編]等の定着のため、中小企業者等に対し、適切かつ効果的な周知を図るための広報用パンフレットを製作するために必要である。当該パンフレットは配布のみでなく、全国各地で説明会を200回程度開催しているところ。しかし、当該説明会において「中小企業者への浸透は十分でない」「マニュアルの存在自体を知らない経営者は多い」等の意見が寄せられていることから、28年度においても引き続き広報用パンフレットの製作予算を確保する必要がある。 なお、26年度は、広報パンフレットの変更を検討する段階において、変更すべき内容が軽微であったことから費用対効果を踏まえ製作を見送り予算を節減しており、当該変更すべき内容もあわせ27年度版広報パンフレットを製作する予定である。							
	各経費について、費用対効果を踏まえ、引き続き必要性・優先度等を総合的に勘案したうえで予算を確保・執行していく。								

外部有識者の所見					
(外部有識者点検対象外)					
行政事業レビュー推進チームの所見					
現状 通り	○リスク計測参照モデル関係経費については、金融検査実施に際し金融機関のリスク計測の限界・弱点を明確にしており、必要と認められる。執行に当たっては、金融行政に資するよう、より有効な活用方法を検討していくことが重要。 ○モニタリング支援情報整備・活用経費については、個別金融機関の健全性の確保(ミクロ・ブルーデンス)だけでなく、金融システム全体の健全性の確保(マクロ・ブルーデンス)のため必要と認められる。今後は27年度に実施している海外当局の施策等調査結果を踏まえ、モニタリング強化のためのシステム開発や金融機関からの徴求データの見直しを中長期的に検討する必要がある、28年度において計画しているコンサルティング経費も必要と認められる。 ○自己資本比率規制の国内実施に係る必要な経費については、信用リスク・オペレーショナルリスク検証システムにより、銀行の信用リスク等の計測手法を当局が検証するため必要と認められる。 ○デジタルフォレンジック関連システム経費については、金融検査の過程において、本システムを活用して削除されたデータ等の復元・解析等を行っており、実績においても毎年度活用されていることに鑑み、深度ある検査を実施するため必要と認められる。 ○金融検査手法向上経費については、金融機関や中小企業に検査手法を周知するため、引き続き必要と認められる。また、全国各地での説明会での意見を踏まえ、変更すべき内容もあわせ27年度版広報パンフレットの製作を検討する必要がある。				
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況					
現状 通り	概算要求において、 ○モニタリング支援情報整備・活用経費以外の経費については、27年度と同額程度の予算を要求するとともに、金融行政に資するよう、より有効な活用方法を検討していく。 ○モニタリング支援情報整備・活用経費については、金融機関による適切なリスク管理態勢の整備及び金融システム全体の健全性の持続的な維持に資するため、以下の業務を委託するための予算を要求する。 ・金融機関等からの徴求データの最適な設計 ・徴求データを管理するシステムの導入に係るフィジビリティ調査 ・システムロードマップの作成等に係るコンサルティング				
備考					
関連する過去のレビューシートの事業番号					
平成22年度	1、2	平成23年度	1、2	平成24年度	1、2
平成25年度	1、2	平成26年度	1、2		

金融庁
34百万円

金融機関の健全性を確保するための制度・環境整備

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)

【 随意契約
(公募)・委託 】

A. ニューディメン
ションテクノロジー(株)
12百万円

市場リスク計測
参照モデルに
係るシステム運
用支援・保守業
務

【 随意契約
(公募)・委託 】

B. ニューディメン
ションテクノロジー(株)
11百万円

信用リスク計測
参照モデルに
係るシステム
運用支援・保
守業務

【 一般競争
入札・委託 】

C. (株)富士通マー
ケティング
3百万円
(株)シンクロソ
フト
1百万円
計2先 4百万

信用リスク・オ
ペレーショナル
リスク検証シ
ステム運用支援・
保守業務

【 随意契約
(公募)・委託 】

D. 扶桑電通(株)
3百万円

音声データの検
査効率化シス
テムに係るソフ
トウェア等に関
する調達(デジタル
フォレンジック)

【 随意契約
(公募)・委託 】

E. (株)フォーカス
システムズ
3百万円

電子メール等
のデータ解析
システムに係る
機器等の調達
(デジタルフォ
レンジック)

【 随意契約
(公募)・委託 】

F. 扶桑電通(株)
1百万円

テキストデー
タ分析ソフトウ
ェアに係るメン
テナンスサポート
業務(デジタル
フォレンジック)

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

A. ニューディメンションテクノロジー(株)			E.(株)フォーカスシステムズ		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
事業費	システムの運用支援・保守業務	12	事業費	システムの新規調達	3
			事業費	システムライセンス購入及び運用支援・保守業務	0
計		12	計		3
B. ニューディメンションテクノロジー(株)			F.扶桑電通(株)		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
事業費	システムの運用支援・保守業務	11	事業費	システムの運用支援・保守業務	1
計		11	計		1
C.(株)富士通マーケティング			G.		
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
事業費	システムの運用支援・保守業務	4			
計		4	計		0
D.扶桑電通(株)					
費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
事業費	システムライセンス購入及び運用支援・保守業務	3			
計		3	計		0

支出先上位10者リスト

A.ニューディメンションテクノロジー(株)

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	ニューディメンションテクノロジー(株)	システムの運用支援・保守業務	12	随意契約	-

B.ニューディメンションテクノロジー(株)

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	ニューディメンションテクノロジー(株)	システムの運用支援・保守業務	11	随意契約	-

C.(株)富士通マーケティング

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)富士通マーケティング	信用リスク・オペレーショナルリスク検証システムに係る運用支援及びハードウェア・ソフトウェア保守業務	3	1	
2	(株)シンクロソフト	金融機関から提出される定量シートのデータベース化に向けた支援業務	1	2	

D.扶桑電通(株)

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	扶桑電通(株)	システムライセンス購入及び運用支援・保守業務	3	随意契約	-

E.(株)フォーカスシステムズ

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)フォーカスシステムズ	システムの新規調達	3	随意契約	-
2	(株)フォーカスシステムズ	システムライセンス購入及び運用支援・保守業務	0	随意契約	-

F.扶桑電通(株)

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	扶桑電通(株)	システムの運用支援・保守業務	1	随意契約	-